

第 44 号
研究紀要（別刷）
2017 年 3 月

子どもと大人のための混声合唱曲
『まんじゅうこわい』
Manju Kowai
～A Mixed Chorus for Children and Adults～

井 本 英 子
IMOTO Hideko

夙 川 学 院 短 期 大 学

制作概要

子どもと大人のための混声合唱曲。子どもパートは2声部、大人パートはソプラノ・アルト・男声の3声部と、ピアノ伴奏で構成。第1曲から第16曲まで *attacca* ですべて続けて演奏。

テキスト『まんじゅうこわい』は、古典落語の演目で東京でも上方でも多くの噺家が演じており広く親しまれている噺である。登場人物や「怖いもの」の種類や「饅頭」の種類など、演者によって細部は異なる。大筋は日常の中で若者たちが集まって話をする中で、好物の饅頭を「震えるほど怖い」と言って、皆の意の裏をかいてまんまと饅頭を頂戴しようとする者と、怖がっている饅頭をわざと用意して困っている様子をみて楽しもうと企むものとのせめぎ合いである。人の意地の悪い部分のかけひきというシニカルなところがこの話のテーマであり面白さであるが、この作品は子どもも大人も一緒に楽しんで歌える合唱曲というのがテーマであるので、『まんじゅうこわい』の題材を使いながらも、シニカルな部分を除外してテキストを構成した。子どもたちが怖いと思うものに対して「怖がるだけではなく仲間になって仲良くなれば怖くない」と、いろいろな理屈を見事につけることの面白さや、『ま』がつく言葉や『まんじゅう』の言葉あそびの面白さや、落語の上手・下手を子どもの声と大人の声にした歌の中での掛け合いの面白さを表した。

この作品では饅頭を怖がる人物を『理之助』とした。物事を理路整然と筋道立てて捉える理之助。正しいことを言っているのであろうが、理屈ばかり言っている「理屈屋 理之助」である。「怖いもの」としては、『ヘビ』『クモ』『オバケ』とした。言葉あそびとしては『ま』がつく『魔女』『マントヒヒ』『マングース』『まんじゅう』とした。

なお、作詞は里見もも（ペンネーム）として表記。

本作品は、2016年5月15日 西宮市民会館アミティホールに於いて初演。西宮中央合唱団第20回定期演奏会のための委嘱作品。指揮 畑義文氏、ピアノ 城村奈都子氏、合唱 西宮中央合唱団・夙川エンジェルコール。演奏時間 15分。

井本 英子

子どもと大人のための混声合唱曲

『まんじゅうこわい』

2016年5月15日 初演

『西宮中央合唱団第20回定期演奏会』委嘱作品

西宮市民会館アミティホール

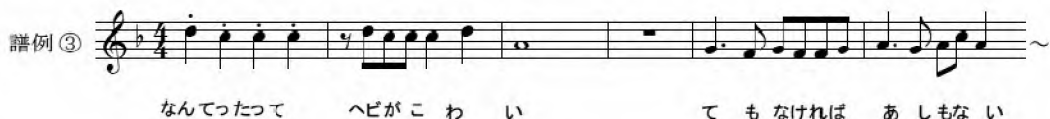
第1曲『さてさて』[4分の4拍子 Ddur] 話の導入部分。8小節のピアノ前奏の後、冒頭はユニゾンで始まる(譜例①)。この動機(※a)は第15,16曲でも用い、第2.3.9.10.11曲では短調で出てくる。



第2曲『思い出すと』[4分の4拍子 dmoll] 半音進行のメロディーがテーマ(譜例②)。「おもいだすと せなかがゾクゾク からだがふるえて ブルブル・・・」五声で歌う。「なにになに それはななに・・・」と、大人パートが問いかける。このメロディーは第10曲でも用い、第12,13曲の中では hmoll で大人パートで歌い、第14,16曲の中では子どもパートが歌う。



第3曲『なんてったって』[4分の4拍子 dmoll] 子どもパートが怖いものを歌う(譜例③)。「なんてったって ヘビがこわい・・・」とヘビが怖い理由を歌い、大人パートと掛け合う。続いて『クモ』『オバケ』についても歌う。そして『理屈屋 理之助』に怖いものをきく。



第4曲～第7曲[8分の6拍子 Gdur] 第4曲『こわいものなど』で、まず男声が「理之助」役で「こわいものなど ありゃせんわ・・・」と歌う(譜例④)。そこに大人パートの女声が加わり、『ヘビ』『クモ』『オバケ』各々と仲良くなって仲間になる方策を子どもパートと掛け合いながら歌う(第5曲『ヘビとなかよく』)。確かに、理屈の通ったことを言う理之助の言う通りなのであろうが、やっぱり『ヘビ』『クモ』『オバケ』は怖いと子どもパートが歌う(第6曲『りくつやりのすけ』、第7曲『ヘビがこわい』)。



井本：子どもと大人のための混声合唱曲『まんじゅうこわい』
 第 8 曲『すきなものがあるように』[4 分の 2 拍子 Ddur]五声と、子ども・大人両パートの掛け合いで、理之助の怖いものを問い(譜例⑤)、「こわいものが ひとつある・・・」と大人パートが歌う。第 9 曲『なかよくなれないものに』[4 分の 4 拍子 dmoll]では「なかよくなれないものに こわいものが ひとつある・・・」と大人パートが歌い子どもパートと掛け合う。第 10 曲『思い出すと(2)』では第 2 曲のテーマを今度は大人パートが歌い、子どもパートが問いかける。



第 11 曲『まがつく』[4 分の 4 拍子 hmoll]『ま』がつくものが怖いことを大人パートが歌う。続いて両パートで「ま ま」「ま ま まがつく まがつく ま ま まほうでまどわす まじょ」「いやいや まじょは なかよくなれる・・・」と『ま』がつく『魔女』について掛け合って歌う(譜例⑥)。『マントヒヒ』『マンガース』についても掛け合って歌う。

第 12 曲『まんじゅう』[4 分の 4 拍子 hmoll]、第 13 曲『あまいまんじゅう』[4 分の 4 拍子 Ddur~hmoll]で、饅頭が怖いことを大人パートが歌い子どもパートと掛け合う。

第 14 曲『ほんとかな』[4 分の 4 拍子 Ddur]では子どもパートが「ほんとうに まんじゅうが こわいのか・・・」と歌い理之助に饅頭をプレゼントしてみることを五声で歌う(第 15 曲『プレゼント』[4 分の 4 拍子 Ddur])。



第 16 曲『じょうよまんじゅう』[4 分の 4 拍子 hmoll~Ddur]「じょうよまんじゅう くりまんじゅう へそまんじゅう さかまんじゅう・・・」とユニゾンで始まる(譜例⑦)。このモチーフを主軸に理之助が饅頭をパクパク食べる様子を歌い、ほんとうに怖いものを問う。「こんどは しぶくて こい おちやが こわい・・・」と話の落ちまで両パートの掛け合いとユニゾン・五声で展開してピアノの 2 小節の短い後奏で終わる。

